

5. 5 めとる：アンケート抄：Q.〇〇の結婚（式）？

Facebook&twitter「とある民俗学講師の補足メモ」

- ・婚姻の前近代：「嫁」という資源（生産力&再生産力）の分配、手続きは複雑なほうが良い？
- ・婚姻の近代：婚姻圏の拡大、仲介者の重要性の増大、婚礼の華美化＝商業化（ex. 神前結婚、仏前結婚）
- ・婚姻の現在：ロマンティック・ラブ・イデオロギーの「形式的」持続、「婚活」そして「非婚」の時代へ

【婚姻の決定】父は北海道北広島市の出身、陸上自衛隊に入隊、母は北海道恵庭市の出身、ゴルフ場のキャディをしていた。出会いは共通の友人の紹介で、母としては屈強な肉体を持ちかつ経済的に安定した自衛隊という職に惹かれ、父としては母がゴリゴリのギャルであったことに惹かれたらしい。それから、とんとん拍子に話が進み結婚まで行ったらしい。

【結納】両親の結納は、新潟県魚沼市の母の実家で、父の両親を招いて行われた。結納の一式を持ってきた気がするが、何だったかは忘れたらしい。昆布やスルメなど、7つあった気がすると話していた。そして母方の母が作った料理を食べたらしく、父はその中のお吸い物がとても美味しかったと話していた。その場を回すのは父方の父だったらしい。

【嫁入道具】両親は2006年、宮城県仙台市のメトロポリタンホテルで人前式の結婚式を挙げた。母方の祖母は徳島県徳島市で結婚した際に、鏡台、水屋、綺麗な彫刻が入った簞笥、着物（普段使い用と外出着）、振袖を嫁入り道具としてもらったそうだ。水屋や簞笥はかなり大きく、引っ越すときに持ってくるのが大変だったらしい。母は祖母の嫁入り道具の簞笥や着物を引き継いで、披露宴で振袖を着ていた。

【花嫁行列】大叔父は自宅で式を挙げた。花嫁行列では、実家から嫁ぎ先まで嫁入り道具を持って歩き、道具を運ぶ人夫は親族以外だった。親族は礼装でその後ろをついて歩いていき、仲人もついてきた。嫁入り道具は金櫃(きんびつ)と呼ばれる衣装箱や簞笥、化粧台などで、内容や量は花嫁によって大きく異なるものだった。（福島県南会津町）

【餅投げ】私が5歳の時、静岡県藤枝市の結婚式場で、父方の叔母の結婚式に参加しました。オシャレな服を着て、指輪を運んだ記憶があります。結婚式の後、「餅投げ」を行い、新郎新婦の幸せをみんなで分け合いました。

【引き出物】私の両親は2000年、富山駅前にあるホテルで結婚式を挙げた。父が「キリスト教徒でもないのに西洋風の式を挙げるのはおかしい」という考えだったらしく、母は白無垢を、父は紋付袴を着て神前式を行った。披露宴は、両家の親族と共通の友人のみを招待した小さなもので、引き出物はかまぼこだった。富山の引き出物は大きな鯛のかまぼこが有名だが、父が「持ち帰りにくい大きな物を渡すのは迷惑だ」と主張したため、普通のかまぼこになったらしい。

【おちやご】母は佐賀市東与賀町、父は嬉野市塩田町の出身で、1998年、結婚式を挙げた。式場は、東与賀の実家で当時加入していた互助会の割引が利用できる佐賀市内の会場が選ばれた。神前式で、玉串を捧げるなどの儀礼が執り行われ、両家の親族がそれぞれ10人ほど参列した。挙式の後には披露宴が催され、当時は友人や会社関係者だけでなく、ご近所さんをご飯に招待する「おちやご（御茶講）」という恒例行事があり、本来は式の後に公民館などで新郎新婦を披露していたものが、この時期にはすでに披露宴へと招待する形が主流になっていたそうです。

【神前婚】私の両親は、2005年、大阪市天王寺区の生國魂神社で結婚式を挙げた。生國魂神社は、神武天皇が国土の守護神として生島大神・足島大神を祀ったことに始まり、約2700年の歴史を持つ。「いくたまさん」の愛称で親しまれており、母はこの神社で巫女を務めていた。式では、巫女に導かれて手水を行った後、笙、箏、簞箏、龍笛による雅楽

が奏でられる中、一行が本殿へ進んだ。修祓や祝詞奏上、三献の儀、指輪交換、玉串奉奠、御神楽などを経て、親族固めの盃と斎主の挨拶で閉式した。母はこの式を最後に退職したが、境内で共に遊んだ子どもたちも駆け付け、にぎやかで温かな一日になったという。両親の写真を使った挙式案内のポスターは今も神社に掲示されている。私たち家族は人生の節目ごとに参拝し、当時お世話になった宮司さんも変わらず私たちを気に掛けてくださる。生國魂神社は、両親の門出を見守っただけでなく、現在も家族の歩みをつなぐ大切な場所である。

【**仏前婚**】父母は、20年前、自坊の本堂で結婚式を挙げ、披露宴はフォレストヒルズで行った。本尊である阿弥陀如来を中心に、親族だけではなく門徒さんも集まった。他所の住職が司婚者で取り仕切る。（愛知県豊田市）

【**海外婚**】私の両親は、母が婚約後に留学をしていたこともあり、2000年、イタリアのクレモナ市役所にある宗教的理由で自身の教会を持たない人のための結婚式場で結婚式を挙げた。本来、日本人同士の結婚式では用いられることはなかったが、母が聖歌隊として市のために歌っていたことや、母の友人が市の役員であったことから、特別に使用許可がおりた。ただし、市の役員である友人を保証人にするのと、日伊の通訳をつけることが条件にされた。クレモナには世界最古とされるバイオリンがあり、そのバイオリンを結婚式で演奏して貰ったという。

【**韓国**】在日韓国人3世の母は同じく在日韓国人の父と、2005年、パレス愛新大阪で挙式、披露宴を行いました。式はチャペルで、韓国伝統の花嫁衣装のチョットリ、チマチョゴリを着用。キリスト式でチマチョゴリは少し抵抗ありましたが、初めて来賓客にお見せする衣装はチマチョゴリでという思いがあったとのこと。披露宴には100人以上、近年としては少し多めの招待客で、繋がりの深い韓国人らしい結婚式だったとのことでした。

【**中国**】以前、中国甘肅省平涼市で回族の友達の結婚式に参加した。回族は中国の少数民族の一つ、イスラームを信仰する民族集団で、イスラームの教えに基づく儀式が重要な役割を果たしている。式当日は、新郎側の親族が新婦を迎え、親族や友人が集まって新郎新婦を祝福した。式では、阿訇（アホン）と呼ばれる宗教指導者が『コーラン』のある一節を唱え、新郎新婦双方の結婚の意思を確認する「ニカーハ」という儀式を行った。その後、ハラール飲食を守る宴席が設けられ、親族や友人と一緒に食事を楽しんだ。宴席において、肉類以外、揚げ麺類と堅果で作られた飴が重要な位置を占めた。

【**職場結婚**】母方の祖父母の結婚式は、1977年、山梨県富士吉田市にて行われた。祖母も祖父も富士急に勤めていたため、富士急の方から、結婚の話がまとまった時に、富士急ハイランドで結婚式をしてくれと言われ、披露宴は富士急の関係者ばかりだった。祖母方は、懇意にしている人の他に近所の人たちも披露宴に呼んだらしい。

【**現代風**】両親の話。大正時代に建築された貿易商の邸宅である旧西尾邸を活用した神戸迎賓館（兵庫県神戸市須磨区）にて、20年ほど前に披露宴を行ったそう。主賓の教授の話が非常に長いと予想した両親は、自身が学生時代に所属していたオーケストラ部のメンバーと結託して、ある一定の時間が過ぎたらメインテーブルから2人が立ち上がって指揮棒を振り、蛍の光をメンバーが一斉に演奏し始めるという暴挙に出た。一見ひやひやする場面だが、教授の面目を潰すことなく、すぐに爆笑が起こり、教授も笑いながらも察してマイクを置いたらしい。最後は『Thank You For The Music』を両親が仲間と共に演奏して結びとなった。課題を通してこのエピソードを初めて聞いたが、自分の両親がこういった遊び心を交えながら、皆まで言わずとも相手に察していただくという粋なテクニックを有していることを誇りに思った。

【**！**】大阪府出身の父と奈良県出身の母は20年ほど前にホテルで結婚式を挙げた。父はすべて母の意向に従ったと言っており、母は自分のやりたい事は全てやったと言っていた。我が家には2人の結婚式の写真が飾られているのですが、そこには写真写りのためにメガネを外され、さらにはシークレットブーツまで履かせられている父の姿が写っています。